◇委員の紹介◇

株式会社大和証券グループ本社
サステナビリティ推進部長
川那部　留理子

このたび、サステナビリティ基準委員会(SSBJ)非常勤委員の二期目に就任しました川那部です。

私は 2018 年から、作成者の立場で非財務情報の開示に取り組んできました。非財務開示に関する基準やフレームワークが多くあるなかで、自社の取組みをどう効果的に開示すべきか社内でもよく議論したのを覚えています。そうしたなかで、2021 年 11 月に国際サステナビリティ基準審議会（ISSB）が設立され、同時にサステナビリティ開示基準のプロトタイプが公表されました。これから開示実務がどのように変わっていくのか、強い期待感を持ってそのニュースを受け止めました。

国内ではこうしたグローバルの動きに迅速な対応がなされ、2022 年 1 月には SSBJ の前身となる SSBJ 設立準備委員会が設立されました。私はこのタイミングから委員の一人として議論に参画させて頂いています。その後、2022 年 3 月には ISSB による公開草案が公表され、翌年 6 月に最終化。そしてその要求項目をベースとした SSBJ の公開草案は 2024 年 3 月に公表され、一年後には国内初のサステナビリティ開示基準として最終化の局面を迎えました。審議の過程では、既に長い歴史のある企業会計基準から学ぶことも多く、サステナビリティの実務者として視野の拡がりを得ることが出来ました。また、開示実務を担う日々の経験が基準策定に反映されていく、大変貴重なプロセスを経験させて頂きました。

SSBJ 基準は今回一つの節目を迎えましたが、基準の円滑な適用に向けてここからが非常に重要なフェーズとなります。利用者にとって、開示された情報が投資判断に有用かつ利用しやすく、その結果として、作成者が作成コストに見合う効果を実感できる、そうした開示のエコシステムを創り出す必要があります。

足許では、SSBJ 基準の法定開示化を見据え、多くの企業で本格的な準備が始まっています。SSBJ 基準に準拠した開示を実現するためには、分野横断的な人材育成や意思決定プロセスの再構築、データ集計システムの高度化など、体制整備の面でも多くの課題に取り組む必要があります。こうした作成者による基準適用に向けた準備がスムーズに進むよう、自らが作成者である立場を活かして、積極的に取り組んでいきたいと考えています。

SSBJ 基準を通じて社会のより良い変化に貢献すべく、二期目も委員会活動に真摯に取り組んで参ります。どうぞよろしくお願い致します。